



YMCAの再就職支援〜逆境から未来を切り拓く〜

現在、公共職業安定所(ハローワーク)で職を探している人一人あたり何件の求人があるかを示す、有効求人倍率(2009年7月現在)は全国平均で0.42倍、九州平均では0.37倍。熊本では前年同月を0.28ポイント下回る0.35倍となっています。昨年起こった世界的な金融危機リーマン・ショック(※)の影響により、日本でも製造業関連の大手企業を中心に派遣切りや雇い止めが発生。離職率は増加し、完全失業率は5.7%に上っています。離職後も、特別な技術や能力がないと、希望する条件や職種で就職するのが困難な場合もあり、再就職へ向けた技術習得のために職業訓練を希望する離職者が増えています。

国や県では再就職を目的とした職業訓練を実施し、就職する上で困難を抱えた人々に対し、スキルアップの機会を提供しています。職業訓練には、民間教育訓練機関等に委託して行われているカリキュラムもあり、熊本YMCAでは、独立行政法人雇用・能力開発機構熊本センターや熊本県立熊本高等技術訓練校の委託を受け、介護・パソコン分野のコースを実施しています。今回は、その取り組みについてご紹介します。

リーマン・ショックアメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズがサブプライムローン(収入が少ない人向けの住宅ローン)問題などで経営が行き詰まり、2008年9月に経営破綻。これが国際的な金融危機の引き金となり、世界中で株価が落ち込むなど、衝撃は全世界に波及した。

雇用情勢は悪化の一途 職業訓練への応募者も急増

独立行政法人雇用・能力開発機構熊本センターの小田勇助さんは、「日本の景気は若干の回復傾向にあるとも言われますが、雇用状況は悪化の一途をたどっていると感じています」と話します。離職理由は、勤務先企業の倒産、契約の満了、自主的な離職など様々ではあるものの、今年3月には派遣切りや雇い止めによる離職者が急増。「政府が再就職支援を目的とした職業訓練コースを増加させたため、離職者は一旦職業訓練の場を受け入れられ、表向きには失業者の数が減っているように見えます。しかしながら、職業訓練を受けている人たちも失業中であることには変わりなく、雇用につながったわけではありません」。

また、熊本県立熊本高等技術訓練校の吉安泉さんは、「離職者の増加に伴い、国や県が行う公共職業訓練への受講応募者が殺到しています。離職者対象の職業訓練コースの数は前年度の約4〜5倍に増えました。中でも比較的求人の多い介護分野のコースに対する関心は高く、多いもので20名の定員に対して100名近い応募があるような状況です。以前に比べ、資格を取得して、正社員になりたいという人も増えているようです」と言います。

「職業訓練の目的は、新しい仕事に就くために必要な知識や技能を身につけてもらうこと。受講者には職業訓練を通して、近い将来安定した職に就いてもらうことが願いです」と2人は口を揃えます。

YMCAで職業訓練 介護とパソコンを学び技能習得

熊本YMCA学院では、東部YMCAを会場に離職者対象の講座が開かれています。受講者は、3カ月〜6カ月の間、介護とパソコンにまつわる技能や技術を習得します。講座を担当し、自身も介護福祉士の資格を持つ吉田美華さんは次のように話します。「YMCA学院で培われたノウハウを活かし、介護とパソコンの両方の技能を身につけられるのが特徴です。離職者の介護分野への期待は大きいようです。YMCAでは、介護の現場を知る講師が講義を行っています。講義では、現場の大変さも十分に伝えます。理想だけを掲げていると、実際に現場に出た時にギャップを感じてしまい、離職に至ることもあるからです。一方で、介護はおもしろいと感じてもらえるように気を配っています。介護は、きつい・きかないなどのイメージが先行しがちですが、大変なことばかりではありません。身体やこころが不自由になつた高齢者の笑顔や感謝の言葉



に、介護者は何より勇気づけられます。また、自分自身の失敗談も交えながら、できるだけ共感が得られるような内容を心がけています。受講中に、しっかりと自信をつけて現場に入ってほしいと願っています」。

再就職へ向け切磋琢磨 困難を乗り越え介護の現場へ

YMCAに通う受講者の離職理由はそれぞれ異なりますが、介護の現場で働きたいという共通した強い思いを胸に講義を受けています。講義の時間以外にも、教わった内容を確認し合ったり、互いの境遇について話したり、年代や性別の違いを超え、クラスで支え合いながら、楽しく学んでいます。

講座を受講する坂本薫さんは、「年齢的にも転職する最後のチャンスだと考えています。今後、自分がどれだけ成長できるかを楽しみにしています」。中島久志さんは、「今は基礎知識を学んでいるところ。早く現場に出て、介護を必要としている人の人生に関わりたい」と意欲的。6月に、6年間勤めていた製造業の職場を解雇されたという川野雅子さんは「パートや臨時採用の仕事に就くより、資格を取得して正社員として働きたい。現場を体験された講師から、生の声を聞くことができるのがありがたいです」と話してくれました。

吉田さんによると、講座開始当初は不安感の強い人が多かったといいます。「毎日きちんとYMCAに来ていたら大丈夫、と話しています。受講されている全員がとても熱心で質問も多く、活気がありますよ」。

わたしと聖句

ローマの信徒への手紙第10章17節
実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

熊本聖三一教会
中村 正

言葉を書く
一年前孫の男の子が与えられ喜んでいました。前歯が出て母乳に代わり固いものを食べはじめると、娘と婿はそれこそ口移しに「言葉」を教えはじめました。親から愛され、存在を受容されている中で人間らしい「言葉」が伝えられていくのだらう。

「自殺の連鎖」ということがあろう。人が自殺した際、周りの人間に喪失が起こる。それが子である場合、自分は親から捨てられたという思いが起ころ「自分が必要とされてない」という「言葉」がいわば、霊的な傷として残る。連鎖とはその子が親になった時、同じように自殺を企て、それがさらに遺族に伝わっていくことなのだ。

キリストは「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と言われ「あなた方はわたしの友である」と言われた。次の日、十字架の上にご自分の命を献げられた。このキリストの罪の赦しの受容こそ、わたしの今の生きる力となっている。伝道者パウロはこのキリストの福音を神の御言葉を聞いたことがないユダヤ人以外の人々に伝えることに生涯をかけた。わたしも神さまの宣教と器として、多くの人が「キリストの言葉」を聞くことができるように用いられたいと祈りながら願っている。